



大淀中だより

学校教育目標「自主・自律の態度と共生の心を育成する」

京都市立大淀中学校

学校だより

令和8年(2026)9月29日

校長 塩見 登

学校教育力向上に向けたアンケート結果(生徒)

前号で掲載いたしました「学校教育力向上に向けたアンケート」の保護者回答に引き続き、生徒回答の集計結果を紹介いたします。この結果につきましては、学校運営協議会・教職員と共有し、今後の学校改善につなげて参ります。

*数値は「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した人数をあわせた割合になっています。

*令和7年度後期より3%以上(↑) *令和7年度後期より3%以下(↓)

設 問	R7	R8
①予習復習をきちんとできている	47%	48%
②宿題はきちんと忘れず提出できている	81%	85%↑
③グループ学習では仲間と相談しながら、自らの課題を見つけて取り組んでいる	82%	79%↓
④文章の読解力や作文・発表等の表現力が増してきた	65%	60%↓
⑤授業は楽しい	73%	70%↓
⑥授業はわかりやすい	75%	80%↑
⑦学力を伸ばし、自らの進路実現を達成したい	89%	84%↓
⑧授業を受ける前に教室の美化、机椅子はきちんと整理されている	70%	70%
⑨学校生活は全般的に楽しく過ごせている	91%	89%
⑩学校行事を前向きに取り組んでいる	89%	90%
⑪友達と仲良く過ごせている	97%	94%↓
⑫自分にはいいところがある	68%	66%
⑬将来の夢がある	66%	58%↓
⑭困ったときに相談できる友達がいる	90%	86%↓
⑮自らすすんで挨拶ができている	67%	78%↑
⑯学校のルールは守れている	85%	88%↑
⑰地域の行事には積極的に参加している	24%	29%↑
⑱自分の住んでいる町に愛着を持っている	70%	72%
⑲早寝、早起きを心がけている	51%	50%
⑳朝ごはんを毎日食べている	80%	83%↑
㉑朝の検温など、健康観察をしっかりと行っている	13%	31%↑
㉒ハンカチを持ってきている	40%	48%↑

学校生活について

新入生を迎え3分の1の生徒が変わり、少し数字が変動しているところもあります。しかし、設問⑨「学校生活は全般的に楽しく過ごせている」、設問⑩「学校行事を前向きに取り組んでいる」の項目をみると、数字としては、多くの生徒が学校生活に対して肯定的にとらえており、充実した学校生活を送っていると考えられます。設問⑫「自分にはいいところがある」、設問⑬「将来の夢がある」の数字が少し低いのが気になるところです。今年度2年目となる総合的な学習の時間(探究活動“ドリゼミ”)を通して、自己の可能性を高め、自己理解を深めてくれることを期待しています。

学習面について

今年度は、特に“表現力”“質問力”“情報活用力”を意識した授業に取り組んでいます。その中で、設問④「文章の読解力や作文・発表等の表現力が増してきた」の項目の数字が昨年より低下しています。設問③「グループ学習では仲間と相談しながら、自らの課題を見つけて取り組んでいる」の項目とも連動させながら、3つの力を伸ばすような授業展開を教職員一丸となって取り組んでいきます。



～世界から淀へ(校長の独り言)～

時々、“あれっ？自分っておせっかい？変な人？”と思うことがあります。外国から日本を訪れている方々を見つけると気付いたら話しかけに行っているのです。特に、困っている人を探している自分もいます。もしかしたら、“ナンパしてる？”と自分に問いかけることもあります。日本では、そう思われるかもしれません。しかし、海外では普通なのです。もちろん、瞬時にこの人は大丈夫か怪しいかを見分ける術は必要ですが。見知らぬ人にも笑顔で挨拶。そこから始まる何気ない会話。そしてそこでもまた笑顔。私は、海外での滞在や旅行で数知れないヘルプを現地の人から受けました。そこで、その人を好きになり、場所や国を好きになってきました。今、日本にいて思うこと。外国から日本を訪れたり滞在をしている方々に、日本を好きになってほしい 京都を好きになってほしい。私が、海外で感じたように。先日、日本の ICT 技術を学びに来ている研修生 10 カ国 11 名の方々と交流しました。あまり日本では出会うことがないさまざまな国の方々ばかりでした。残念ながらすべてのクラスで交流することは出来ませんでしたが、来校時・休み時間・学年合唱の時などフリーな時間も含めて、生徒の皆さんの“おもてなし”は見事でした。実は、交流する前に“英語で交流するのが苦手な生徒もいるので、みんなシャイになるからゆっくり会話してね”と研修生に伝えていました。交流プログラムが終了した研修生の感想に、“校長先生は、嘘をついたね！大淀中学校の生徒は、みんなすごくエネルギーでフレンドリーじゃないか！すごく交流が楽しかったよ”とコメントをくれました。大淀中学校の生徒・教職員を世界へ発信したいという思いが伝わったようです。翌日、先方の担当者から1枚の写真が届きました。研修生の一人が、大淀中学校の生徒が作ってくれたブックマークをリュックにつけてくれている写真です。彼らは、9 月末に日本から母国に帰りました。日本での滞在について母国で思い出話をしているでしょう。きっと、日本を代表して交流した君たちのことを笑顔で語ってくれていることと思います。短時間の交流でしたが、彼らにとっては忘れられない日本の生徒との最高の時間でした。

今まで出会った生徒や保護者の方々から“先生、先生はなんで先生になったんですか？”と質問されることがあります。決まってこう答えます。“英語教師として、自分が見てきた世界を日本の子どもたちに伝えたいからです”時にこの思いは、片思いで一方通行のことがよくあります。しかし校長になっても、その初心を忘れたことはありません。今回の出会いと交流を通して、私自身が一番楽しんでいたかもしれません。この交流を通しての世界各国からの研修生の笑顔、大淀中学校の子どもたちの笑顔、教職員の方々の笑顔に感謝したいと思います。

